

取組名	次々と起こる不測の事態に教職員は組織で対応できるか？		
特徴	シナリオにない不測の事態を組み入れた訓練により教職員の危機意識の向上を図る。		
学校名	長門市立俵山小学校	期日	平成30年9月6日（木）

1 ねらい

- 連日の降雨による土砂災害及び河川の氾濫に対して、安全かつ迅速に避難する。
- シナリオにない不測の事態を訓練の中に組み入れ、教職員の危機意識と組織的な対応力を高める。

2 概要

(1) 取組の流れ

土砂災害防止対策の推進に関する法律の改正により、土砂災害警戒区域に立地している本校にも避難訓練が義務付けられた。山口県学校防災アドバイザー2名を招いての初めての土砂災害に係る避難訓練である。教職員には想定のみ伝え、訓練の中で起こる次の3点（※1～3）は知らせずに実施した。

(2) 当日の流れ

① 想定

連日の降雨により校舎西側の土砂崩れの可能性が高まった。また、校舎南側の七重川の水位が上昇し校地内に流れ込む恐れがある。

② 訓練

10:15 土砂災害警戒情報発令

避難開始放送 ※1 予定よりも15分早い休み時間中の避難指示

※2 避難の途中に児童1名が行方不明

10:20 避難完了 ※3 負傷し動けない教員が1名

10:30～11:10 防災教室



協力を求めながら児童を探す担任



養護教諭による救命措置と補助



防災アドバイザーによる防災教室

3 成果と今後の課題等

児童・教職員ともに状況を判断しながら主体的に行動することができた。行方不明児童が発覚した時点で、担任が他の教職員に知らせながら捜索にあたる、負傷した教員の処置を養護教諭の指示により補助する等、直面した状況に対処することができた。ただ、中には1人で通報、担架の準備等何役も担った教員もあり、混乱する中でも児童管理と不測の事態への対応の役割分担を明確にし、組織的に対応するための指示の必要性を感じた。今後も、大切な命を守るための訓練を更にバージョンアップするとともに、地域の方と連携しながら実施していきたい。

防災教室では、学校防災アドバイザーから、土砂災害のメカニズムや効果的な情報の収集の仕方と早目の避難の大切さ、俵山地区の危険な箇所等について話を聞くことができた。